

MRI 検査での注意事項

MRI は、強力な磁石と電波を使用して、体の中のいろいろな方向の断面像を撮影する検査です。X線検査のような放射線による被曝はありませんが、日常にはない強い磁石を使いますので、体内に金属がある場合など検査を受けることができない方があります。安全に検査を受けていただくため、以下の注意をよくお読みいただき、当てはまるものがあれば、検査予定日より前に必ず申し出てください。

1. **心臓ペースメーカー、人工内耳、植え込み型除細動器、神経刺激装置、骨成長刺激装置**などのような電子機器やそのワイヤーが体内にある方は故障の可能性があるため検査を受けることはできません。
2. 弾丸や眼球内の**鉄粉**などがあると出血する可能性があるため、検査を受けることはできません。
(顔面の外傷や溶接作業などで、眼球内に鉄粉が入っている可能性があると思われる方は主治医とご相談ください)
3. 手術をした主治医の許可がある時のみ検査できる方
 - 1) **脳動脈瘤クリップ**、脳外科で手術された**シャントチューブ**がある方
 - 2) 磁石で装着する義眼、**磁石で装着する義歯**のある方 (インプラント)
 - 3) **血管内コイル・ステント** (術後 6 週末満)
4. **いれずみやアートメイク**は、極まれに、やけど(水ぶくれ)を起こすことがあります。ご承諾ののち検査を施行させていただきます。
5. 通常手術で用いられる、次のような体内の金属については危険がないといわれていますが、入室時や検査中に異常を感じた場合はすぐに申し出てください。また、このような金属で画像のゆがみを生ずることがあります。
(注意が必要な体内金属)
さし歯、整形外科手術で使用された固定具(人工関節、プレート、スクリューなど)、外科手術で使用されたクリップ、心臓の人工弁、血管内のコイル・ステント(術後 6 週以降)、リザーバ、避妊リング など
6. **指輪やピアスははずしてください**。外れないようでしたらつけたまま検査しますが、検査中に異常(熱感など)を感じる可能性がありますので、異常を感じたらすぐに申し出てください。
7. 検査装置の中は非常に狭いため、閉所恐怖症の方は検査できないことがあります。
8. 磁場が人体に及ぼす影響はほとんどないといわれていますが、胎児に関しての安全性は保証されていませんので、妊娠 17 週末満の時期には検査は行いません。